



# 八束のひろは

～八束公民館報 第36号～

発行：松江市八束公民館運営協議会 〒690-1404 松江市八束町波入2060 Tel(0852)76-3663 Fax(0852)76-3669

### 活動写真



盆歌の練習



ゴズ釣り大会(世代間交流)



盆踊りの練習



ゴズ釣りの様子

「住みよい・暮らしよい・

元気溢れる地域」を目指して

遅江元氣塾 代表 中村 勢次郎

遅江元氣塾では、平成26年度から「住みよい・暮らしよい・元気溢れる地域」を目指し、地区の有志や各団体等の役員で構成されたメンバーにより、下記のボランティア活動を行なっています。

#### 1. 世代間交流活動

地域の子供達や親世代と高齢者が、グラウンドゴルフ大会や「ゴズ釣り大会」を実施し、世代間の交流を深めています。

#### 2. 環境美化活動

ごみ集積場にプランターを設置し、花を植え環境美化に努めています。また、7月に行われる親子会主催のクリーン遅江に協力し参加しています。

#### 3. 伝統文化継承活動

毎年8月13日・14日開催の地区盆踊りを前に、盆踊りの歌い手（現在40代～70代の6人）の育成や、地域の子供達や親世代を対象に、盆踊りの練習会を開催し、伝統文化の継承に努めています。

#### 4. お助け隊活動

地域で草刈り・除雪等が困難な高齢者世帯等を対象に、遠慮しないで気軽に依頼できるよう有償（民業を圧迫しないよう30分1人500円程度で実施し、草刈は住宅地、住宅地に隣接する農地及び交差点に隣接する農地を対象としています。また、除雪は住宅地等を対象としています。）によるお助け隊活動を行い、高齢者が安心して暮らせるような活動を行っています。

#### 5. 打ち上げ花火活動

地域の住民、特に高齢者等が自宅の近くで花火が見られるよう、松江市の補助金を活用して打ち上げ花火を実施しており、大変喜んでいただいています。

最後に、地域住民の皆様や自治会及び各団体のご理解・ご協力があったて、こうした活動が出来ることを誇りに思っています。

今後もうこうした活動を続け、次世代に引き継いで行きたいと考えています。

特集

# 第24回 座談会

## おそえ 和気あいあい「遅江元気マーじゃん」

八東町遅江地区は、人口459人、世帯数194世帯（2025年9月末現在）の集落です。遅江地区でのマーじゃんの歴史は古く、約40年前の正月休みには有志で行われていました。その後参加者も減り途絶えました。

4年前、代表世話人の福田光司さんの声掛けで、「遅江元気マーじゃん」が復活しました。本日は、参加の皆様方にお集まりいただき対談しました。

- 〈座談会メンバー〉
- ① 福田 光司（代表世話人）
  - ② 福島 寿文
  - ③ 門脇 功
  - ④ 池田 文雄
  - ⑤ 門脇 巧

### マーじゃんを始めたキツカケと良さは？



福田 光司さん

福田：遅江地区のマーじゃんは、約40年前には正月休みに行われていました。私もマーじゃんを覚え、当時は夢中でした。しかしながら、次第に地域での正月行

福島：私は若い頃から趣味でマーじゃんをやっていました。マー

池田：私は、社会人になって5年目の頃、会社の先輩に教わりながら卓を囲んだのが始まりです。マーじゃんは頭を使うため脳の活性が良くなり、歳を重ねてもボケないと言われています。年齢を問わずできる娯楽の一つです。卓を囲むと精神的に気持ち

ジヤンは少人数でできますし、場所も小スペースがあればできます。また、歳をとっても遊べますし、頭や手先を使い、時には会話をしながら、仲間とのコミュニケーションを図ることもできます。



門脇 功さん

門脇（功）：旧国鉄（現JR西日本）に勤務していましたが、若い頃にマーじゃんを覚え、勤務明けには同僚とよく卓を囲んでいました。今では懐かしい思い出

門脇（巧）：学生の頃、先輩に誘われて始めたのがきっかけです。



4人揃えばできるので、よく囲んでいました。マージャンの良さは、牌を積んだり切ったりして手先を使い、相手の手牌を読みながら自分の役作りで頭を使うところですかね。マージャンを通して、いろいろな方とコミュニケーションを図ることができました。

**遅江元気マージャンは如何ですか？**



池田 文雄さん

池田…毎回3〜4卓の参加者がありますが、参加費は500円で、お茶とお菓子付きで皆さん和気あいあいと楽しんでます。また卓毎に1位と2位に賞品(安価な家庭用品)を、3位と4位には参加賞がいただけます。また夏と冬の大会後に懇親会も開催しています。他の地区でもこのような娯楽マージャンをされてはいかがですか？ 将来は、町内大会等が開けるようになれば、

ば、町の活性化にも繋がると思っています。



福島 寿文さん

福島…私は八束町の出身者ではなく、遅江地区の方々と面識がなかったですが、知人から代表の福田光司さんを紹介してもらい、この会に入会させてもらいました。徐々にはですが、遅江地区の方々の会話や、皆さんの顔を覚えることができました。また地区の行事などにも参加でき、とても良い会に出会えたと思っています。



門脇(功)…遅江地区にUターンして7年になりますが、メンバーの中には子供の頃に遊んだ仲間もあり、毎月第2日曜日(開催日)が楽しみです。世話人の方は大変ですが、無理をせず続けてほしいと思います。



門脇 巧さん

門脇(巧)…私は長年、小学校の教員として各地で勤務していましたが、退職前には地元から通勤していました。毎回、健康的に和気あいあい楽しい時間を過ごしています。これも世話役の福田光司さんがメンバー集めや卓のセッティング等、色々なことに気を配って準備してもらっているお陰です。ありがとうございます。

福田…どこの地区も同じだと思いますが、高齢者が多くなりました。特に男性は地域イベントへの参加も少なく、地域に出かける機会も少ないように思います。何かできないかと考え、マージャ

ンなら昔経験された方も多いのではないかと、皆さんに声掛けしました。初めは2卓8人を集めるのも大変でした。今年で4年目になりますが、会員も18名となり、4卓(16名)を囲むようになりました。年齢も50代から80代と幅広く、皆さん和気あいあい楽しんでおられます。年2回恒例の行事として、夏はバーベキュー、冬は鍋を囲み皆でコミュニケーションをはかっています。マージャンは場所があれば、天候に関係なくできます。地域活性化のためにもお勧めします。



# 中村元博士が残した『慈しみあふれる言葉』を紹介します ⑱

松江市出身でインド哲学・仏教学の世界的権威、中村元博士が残した慈しみあふれる言葉を、八束町中央の「八束複合施設」正面玄関東横にある掲示板で毎月紹介します。掲示内容は「中村博士自身が述べた言葉」の中から、中村元記念館の加藤千乃学芸員が選び、公民館で書道を学ぶ「中央書道サークル(橘淳子代表)」のメンバーが中心となって毛筆でしたためます。



袁輪頭量氏  
東方学院松江校講師・立正大学仏教学部教授

令和七年八月掲示

## 寛容の精神

中村元のことば

【出典・解説】

「たとえ自分の見解が絶対に正しいと信じている場合でも、なおそれに対する反対論がある場合には、なぜ、あのひとはこのようにしつこく反対するのか？ 自分の見解に誤りがないかどうかということ、反省してみる必要があるのではないのでしょうか。このような反省は、支配者、統治者の場合には、とくに必要であると思います。そして、このような寛容の精神にもとづいて、はじめて議論を尽くすことが可能となります。…」(中村元『仏典のことば—現代に呼びかける知慧』より。)

令和七年九月掲示

## 現在に生きよ

中村元のことば

【出典・解説】

「過去の失敗をくよくよしたり、未来の不安を案ずるのも、つまらないことである。ただ現在に生きよ。このことばは、いつまでも自分の過去に犯したあやまりにかかざらったり(こだわったり)、たえず未来の夢ばかりを追いやすい現代人にとつても、大きな意味をもつだろう。今日の一瞬、一刻の努力の積み重ねが、やがて大きな目的を達するのである。今日の一瞬を大切にしなければならぬ。」(中村元『構造倫理講座Ⅱ〈生きる道〉の論理』より。)

令和七年十月掲示

## 我執を離れよ

中村元のことば

【出典・解説】

「無我というのは、…(中略)…我執を離れよということなんです。人間が生きているかぎりには、自分の存在を貫かなければならない。そうするとどうしても自己保存欲というものがあるわけです。これは除くことはできません。けれどもそれを野放図にしておくことにはなりません。それをきちんと整えて、導く。そこから我執を除くということになります。そして、それが無我の教えと説かれます。無我というのは我執をなくするということです。」(中村元『温かなこころ』より。)

令和七年十一月掲示

## 無限の未来

中村元のことば

【出典・解説】

「見たところでは、限られた身体のような存在であるわれわれの身体は、無限の未来を作り出します。われわれは来年度うなるかということ、正確に予知することはできません。明日さえもわからない。しかし明日が、未来が、来るであろうことは疑いもない道理です。現在のわれわれは無限の未来をはらんでいます。未来はわれわれの作り出すものです。」(中村元『仏典のことば—現代に呼びかける知慧』より。)

あとがき

大根島シリーズ ⑱

「大山を望む遅江港」

大根島東岸の遅江港は、大山や弓ヶ浜半島を望む中海の「風待ち港」です。近年、米子市や境港市から、この港周辺に移住される方々を見受けられます。移り住む条件の一つに、伯耆富士と称される名峰大山などを望む、穏やかで風光明媚な自然環境があると思われまます。(池)

